

第一朗読 知恵の書 12・13、16-19

(主よ、) すべてに心を配る神はあなた以外におられない。だから、不正な裁きはしなかったと、証言なさる必要はない。あなたの力は正義の源、あなたは万物を支配することによって、すべてをいとおしむ方となられる。あなたの全き権能を信じない者にあなたは御力を示され、知りつつ挑む者の高慢をとがめられる。力を駆使されるあなたは、寛容をもって裁き、大いなる慈悲をもってわたしたちを治められる。力を用いるのはいつでもお望みのまま。

神に従う人は人間への愛を持つべきことを、あなたはこれらの業を通して御民に教えられた。こうして御民に希望を抱かせ、罪からの回心をお与えになった。

第二朗読 使徒パウロのローマの教会への手紙 8・26-27

(皆さん、“霊”は) 弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。人の心を見抜く方は、“霊”の思いが何であるかを知っておられます。“霊”は、神の御心に従って、聖なる者たちのために執り成してくださるからです。

福音朗読 マタイによる福音 13:24-43

(そのとき、) イエスは、別のたとえを持ち出して言われた。「天の国は次のようにたとえられる。ある人が良い種を畑に蒔いた。人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて行った。芽が出て、実ってみると、毒麦も現れた。僕たちが主人のところに来て言った。『だんなさま、畑には良い種をお蒔きになったではありませんか。どこから毒麦が入ったのでしょうか。』主人は、『敵の仕業だ』と言った。そこで、僕たちが、『では、行って抜き集めておきましょうか』と言うと、主人は言った。『いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい。刈り入れの時、「まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦の方は集めて倉に入れなさい」と、刈り取る者に言いつけよう。』」

共同祈願

「平和の使徒」となるための祈り

愛と平和の源である神よ、
あなたは、世界で最初の被爆地に司教座聖堂を据えるわたしたちを、
世界平和のために働く使命へと招いておられます。
この召命に応えていくために聖霊の息吹によってわたしたちの罪をゆるし、
キリストの愛のうちにとどまらせてください。
どんなときにもキリストの平和の福音を宣べ伝え、
すべてのいのちを守るあなたの愛をあかしするため、現代社会の中で、
自分にできることをすすんでささげるキリストの「平和の使徒」とならせてください。
主キリストは生きて、治めておられます、
世々としえに。アーメン。